

令和7年度 全国学力・学習状況調査における 本校の結果分析と今後の学習指導の取組について

新宿区立淀橋第四小学校

1 全国学力・学習状況調査について

全国の小学6年生と中学3年生を対象として、学力・学習状況調査が行われました。その結果を受けて、本校児童の結果のまとめと、今後の取組をお知らせします。

2 結果の分析と今後の取組（○良かった点、△課題、→改善のための本校の取組）

実施教科	
国語	<ul style="list-style-type: none">○「B 書くこと」の平均正答率が全国、東京都を上回り、全国の平均正答率を7%以上上回った。○条件や資料に沿って文章を書き直す問題は、全国、東京都と比較して平均正答率が10%以上も上回った。文章を、目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりすることが得意である。△設問3において、無回答が増えている。複数の資料を並行して読み取ることが苦手と考えられる。 →プリント学習で資料の読み方を指導する。社会科や算数でも、複数の資料を並行して読み取ることを行い、資料の読み取りに慣れていく。△「我が国の言語文化に関する事項」は平均正答率が75.7%と、全国、東京都を下回っている。 →言語理解や知識の差が課題と思われる。国語辞典の活用、様々な文章を読むことによって、使われている言葉の違いに気が付くようとする。
算数	<ul style="list-style-type: none">○平均正答率が67%と全国、東京都ともに上回っている。○「数と計算」「測定」「変化と関係」「データの活用」の領域については、正答率が全国、東京都の平均を上回っている。△「B 図形」の五角形を分割してそれぞれの面積を求める問題において正答率が低かった。 →既習の学習を活用することに課題がある。授業の中で前時との比較を行い、めあてや本時の学習を考えるよう指導し、既習事項を活かして学ぶことを意識させる。また、プリントやタブレット端末を活用し、応用問題に取り組む。△記述式の問題において正答率が低かった。 →授業の中で、解答の根拠を全員がノートにまとめ、説明する場を増やす。対話的で深い学びの場をより増やし、友達の説明や表現に触れる機会を増やし、説明力の向上につなげ、自分の考えを表現する力を身に付けられるようにする。

理科	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率が 63%と全国、東京都ともに上回っている。 ○「エネルギー」を柱とする領域については、全国、東京都の平均正答率を上回っている。 △実験結果を踏まえた考察や結論を記述する問題のみ全国、東京都の平均正答率を下回っている。 →結果から分かることを具体的に記述し、考察につなげたり、結論付けたりすることに課題がある。 実験結果を根拠にして、考察したり、結論をまとめたりする指導を積み重ねる。
習慣や学校環境に関する質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> ○「人が困っているときは進んで助けている。」と回答している児童が 100%であり、教育目標の「助け合う子ども」に通じる優しい子どもたちに育っている。 ○算数や理科において「学習がよく分かりますか。」の質問に約 90%の児童が肯定的に答えており、平均正答率にもその結果が表れている。 ○読書をする時間が長い児童が全国、東京都に比べて 40%と多い。朝読書や読み聞かせ等の取組が子どもたちの読書の多さにつながっている。 △「朝食を毎日食べていますか」「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」等の生活習慣において全国、東京都と同程度か下回っている。 →「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを児童に伝えるとともに、学校で行う体力アップの活動を通じて、体をたくさん動かし、児童の「早寝、早起き、朝ごはん」等、生活習慣の改善につなげていく。

3 結果の返却とご家庭での活用について

9月に個人票とあわせて、問題用紙を返却しました。ぜひ、総合点だけでなく、教科別、単元別に問題と結果を照合してご覧ください。児童自身で課題を見付け、自主的な学習にも活用してください。

特に、正答率が低い単元があれば、その単元について学習した際の教科書やノート等を使って復習を行います。さらに、正答率の高かった単元については、発展的な課題に取り組むのもよいでしょう。

本校全体の児童の課題の一つとして、定着のための反復学習をとる時間の少なさが挙げられます。今回の学力調査の結果を基に、継続した家庭学習につなげてください。